

瑞穂まちづくり協議会だより 第16号

会長あいさつ



会長 飯島 健

このほど瑞穂まちづくり協議会長に就任いたしました飯島と申します。就任にあたりまして一言ご挨拶申し上げます。

瑞穂まちづくり協議会は、平成24年11月18日に「香取市まちづくり条例」に基づいて、地域で活動する住民や団体等が相互に協力・連携し、地域の課題解決に向けて話し合い活動する組織として設立されました。

この間、①広報紙の発行②まちづくり標語コンクール③地域の防災体制の確立及び防災意識の啓発④防犯ボランティアの募集⑤瑞穂小学校におけるふれあいコンサート等の開催⑥地区内の史跡をめぐる健康ウォーキング大会の開催、等を実施してきました。なお、特色あるものとしては、平成25年度に始まる史跡案内板の4か所作製、平成26年度には、あんぜんマップの作成、平成29年度には同名のよしみで長野県飯山市瑞穂地区の訪問、さらに平成30年度に

は東京国立博物館郷土展示物見学事業などを展開してまいりました。

さて、今日私たちを取り巻く環境は、これまでに経験したことのないような状況になっております。

その一つは、本誌2～3ページに掲載いたしました、瑞穂地区の人口減少・高齢化問題及び将来の瑞穂小の生徒数の減少です。

二つには、昨年九月の台風15号の襲来にみる気候変動です。今までにない記録的な風による長期停電、倒木、利根川の増水等が相次ぎました。これら台風が大型化した原因にあげられるのが地球温暖化だといわれています。

三つには、コロナウイルスの感染拡大問題です。人々の行動や経済活動が制限され、私たちが恐怖に陥れています。有効な治療薬やワクチンが開発されないことから長期戦になるとみられています。このことから、本誌4ページには歴史の視点でみるコロナ渦、参考として明治期における鶺鴒村の天然痘への対応について掲載してみました。

いつの時代になっても基本は「自分たちの地域は自分たちで守る」ことを念頭に日頃からの備えが大切です。そして、福祉やボランティア精神により、人と人とのつながり、絆が大切であり、皆が声を掛け合い、人のことを気遣いながら、地域の皆で助け合っていくことが重要と考えます。

今年度は、設立8年目になりますが、コロナウイルスの関係から、広報紙の作成を除いて、そのほとんどの事業をとりやめることになりました。何卒、ご了承賜りますようお願い申し上げます。

最後に、当協議会の行事が早く再開できるとともに、先の見えない状態が続いていますが皆様のご健康を祈念してやみません。



出かけてみませんか『令和の柱』へ！

| | | |
|---|---|----|
| 目 | ● 会長あいさつ | P1 |
| | ● 瑞穂地区の人口動態 | P2 |
| 次 | ● 瑞穂小学校の児童数の推移 | P3 |
| | ● 瑞穂の歴史 その8～明治期の天然痘流行に見る鶺鴒村の対応について～ | P4 |